

# 保健体育科学習指導案

日 時 平成 17 年 10 月 13 日 (木) 5 校時

学 級 3 年 A・C 組 (女子 26 名)

指導者 教諭 吉田 由美

## 1 単元名 器械運動 「マット運動」

### 2 単元について

#### (1) 教材観

器械運動「マット運動」は、今できる技をよりよくできるようにしていく中で動きが改善されていく喜びや、新しい技に挑戦することで動きができるようになるプロセスの喜びを感じることができる運動である。また、1つの技や技の組み合わせを発表(表現)する中に自己や友達によさや可能性を認め合うことで、喜びを味わうことができる。

#### (2) 生徒の実態

概ね学習規律が確立しており、教師や、教科ガイドの指示にはよく従う反面、やや積極性に欠ける部分もみられる。安心して学習に参加できる雰囲気作りに配慮し、3年生になって和やかな雰囲気の中ですすめられるようになってきた。

「マット運動」の事前アンケートの結果をみると、「あまり好きではない」と答える生徒が3学年全体の54%を占め、「嫌い」と答えた生徒(28%)をふくめると82%が苦手意識をもっていることがわかった。それは3年生だけに限らず、全学年同じ傾向にあった。苦手意識をもつ(楽しくないと思う)理由には、「うまくできないから」「痛かったり、怖いから」が多かった。しかし、楽しいと感じるときは「できない技ができたとき」と答える生徒が多かった。苦手ではあるが、ほとんどの生徒ができる喜びを味わいたいと思っていることが、事前アンケートでわかった。

抽出生徒については、事前アンケートをもとに「マット運動はあまり好きではないが、友達や教師に多くの声かけをしてもらいたい」と考えている生徒から選び、支援の手立ての有効性を考察したい。

#### (3) 指導観

本単元のマット運動では、技が「できる」「できない」の二者択一的な考え方で学習指導をするのではなく、自己の能力に適した技を選び、技を習得していく過程での練習のしかたや工夫のしかたに学習の重点を置き、自己の達成目標に対して「できる」喜びが味わえるようにしていきたい。生徒の技能差は拡大しており、苦手な生徒や楽しさ体験の少ない生徒が自発的に学習を進めるために「これなら自分もできそうだ」という学習のねらいや道筋を示す必要がある。そして「自己の今の力が学習の出発点」であることを理解し、自己の技能に適した技を選択し、その技の達成のための練習方法を理解させ、取り組ませたい。課題解決の手立てとして補助資料や学習カードを有効に使って、学習が行えるようにしたい。

(4) 研究主題との関連

本単元では、自分に適した技や課題に応じた練習の仕方を選んだり、前後の技のつながりを考え当てはめたりさせる。単一技のできばえを高めながら、資料や学習カードの活用や仲間の助言から課題を明確にしたり、解決の方法を工夫したりさせることを通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を高めていきたい。本時は『思考力の育成を基盤とした授業改善』- 活用場面の設定 - の段階である。

3 単元の目標

【運動への関心・意欲・態度】

進んで技のできばえを高めたり、技を組み合わせたりして、技がよりよくできたり、新しい技を習得したりするマット運動の楽しさを味わおうとする。

【運動についての思考・判断】

学習カードを利用し、技の分解図と実際の自分の動きとを比較し、課題を見つけ、課題解決に適した練習方法を選ぶことができる。

【運動の技能】

ある程度できる技や、技の組み合わせが安定してできる。

【運動についての知識・理解】

選んだ技の練習の仕方、技のできばえの確かめ方、技のつなげ方がわかる。

4 指導計画と評価規準 ( 本時 6 / 7 )

次	時	指導目標	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
1	学 習 動 機 の 明 確 化	1 <u>オリエンテー ション</u> ・運動特性の理 解や学習のね らいについて 理解する。 ・学習カードの 記入のしかた を理解する。	マット運動の特 性に興味を持 ち、すすんで学 習しようとする。  (観察)	既習の経験や 技の判断表か ら自分の今の 力がわかる。  (スキルテス ト)		マット運動の特 性や学習のねら いを理解するこ とができる。  (対話・学習カ ード)
2	理 解 の 確 認	2 <u>技の選択と教 え合い、相互補 助</u> ・今できる技の 正しい動きを 身につけ、より よくすることが できる。	進んで技のでき ばえを高め、マ ット運動を楽し もうとする。  (観察・学習カ ード)	技の分解図と 実際の自分の 動きとを比較 し、課題を見つ けている。  (学習カード)	今できる技の 正しい動きが できたり、より よくできる。  (観察)	選んだ技の名 前、技術構造や 系統性について 言える。  (対話・学習カ ード)

3 活用 場面 の 設定	2 本 時	<u>技の選択と教え合い、相互補助</u> ・今できる技を3～6種類選んで連続させたり、組み合わせたりする。	進んで技のできばえを高めたり、組み合わせたりするマット運動を楽しもうとする。  (観察・学習カード)	技の選択、練習方法、演技構成を考え、工夫している。  (観察・学習カード)	安定して個々の技を行ったり、次の技の動きを先取りして技をつなげることができる。  (観察)	選んだ技の練習方法がわかる。  (対話・学習カード)
	2	<u>演技発表会・まとめ</u> ・学習を振り返り、取り組みの成果と課題を記録する。	進んで楽しもうとしたり、発表や振り返りをしたりしようとする。  (観察・学習カード)	自分に適した技や、課題に応じた練習の仕方を選んでいく。  (観察・評価カード)	ある程度できる技や、技の組み合わせが安定してできる。  (観察・評価カード)	マット運動の楽しみ方や、練習方法、技のできばえの確かめ方を知っている。  (観察・期末考査)

## 5 本時の目標

### (1) 目標

演技発表会に向けて学習カードを使って、自分の力に適した技を選び、練習方法、演技構成を考えることができる。(思考・判断)

できる技の連続や技の組み合わせが安定してできるようにする。(技能)

### (2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
運動についての思考・判断	自己の課題を的確におさえた上で、課題に適した練習方法を選んだり、技の特徴を生かした構成を考えたりしている。	課題解決に向けて、練習方法を選んだり、技の組み合わせやつなげ方を考えたりしている。	対話や補助を通して、それぞれの課題を確認したり、技の組み合わせのよりよい動作の仕方を考えさせたりする。
運動の技能	回転系の技と巧ち系の技の組み合わせが円滑にできる。	技の連続や、技の組み合わせが安定してできる。	学習カードや補助を通して、技のポイントや組み合わせ方、練習の仕方をアドバイスする。

(3) 展開

	学習活動・学習内容	留意事項・評価	配布資料・教具
導入 8分	1・準備運動をさせる。 2・あいさつ	・体調を観察する。 ・教科ガイドの指示で動いているか。 ・注目して、礼をしっかりとっているか。	・マット ・跳び箱（1段） ・ダンボール箱 ・ロイター板
展開 37分	3・今日の課題を把握させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     演技発表会に向けて、技の連続や組み合わせがよりよくできるようになるう！                 </div> 4・自分のめあてを考える。 5・選択した技を練習させる。（3～6種類の技を選択） 6・ミニリハーサルをさせる。	・自分に適した技や、課題に応じた練習の仕方を選んでいるか。 【思考・判断】 ・技の組み合わせやつなげ方を当てはめているか。 【思考・判断】 ・進んで仲間と教えあったり、安全に注意したり、マット運動を楽しもうとしているか。 ・安定して個々の技を行ったり、つぎの技の動きを先取りして技をつなげることができるか。 【技能】 ・グループ内でお互いの技のできばえを確かめたり、助言しあったりしているか。	学習カード配布 実技教科書 学習カード記入
終末 5分	7・まとめ 8・あいさつ	・課題が達成できたか。 ・自分のでき具合はどうだったか。 ・チャレンジ達成度はどうだったか。 ・次時の目標がみえたか。 ・怪我はないか、確認する。 ・注目して、礼をしっかりとっているか。	学習カード記入 学習カード回収